

株式市場の 本当の話

ファイナンシャル・アドバイザー協会資料

2022年6月17日

マーケットエッセンシャル

主筆 前田昌孝

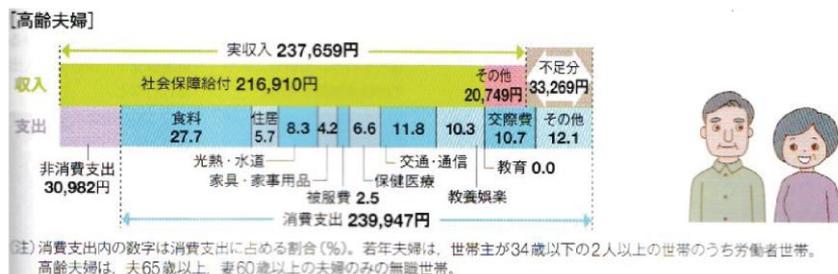
金融・投資教育が始まりました

老後 2000 万円問題が登場

老後の生活費は 1 億円

厚生労働省によれば、高齢夫婦（夫婦65歳以上、妻60歳以上）の平均的な生活費は約26万円であるという。この高齢夫婦が一月当たり26万円の支出で30年間生活した場合、老後にかかる支出総額は9360万円となる。加えて、厚生労働省の試算では住居費が1万4000円程度と見積もられているため、賃貸住宅で暮らす夫婦であれば1億円を超える資金が必要だろう。長寿化が進むこんにち、将来を見据えて家計を管理する必要性が高まっている。

教育図書「公共」P140



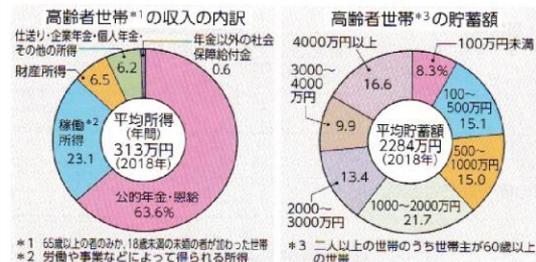
東京書籍「家庭総合」P83

③ 老後の生活費

支出から年金収入(→p.184)を除いた平均額は約1640万円(25年間分)。経済的に豊かな生活を希望すればするほど、そして長生きすればするほど必要額は大きくなる。



帝国書院「公共」P150



↑ 高齢者世帯の収入の内訳(左)、高齢者世帯の貯蓄額(右) (厚生労働省資料、ほか) 公的年金・恩給を受給している高齢者世帯のうち、収入を100%公的年金・恩給に依存している世帯は約半分である。しかし、平均的な老夫婦でも公的年金だけでは、月5万円前後の赤字となってしまう。

帝国書院「公共」P184

「うまい話はない」と説明

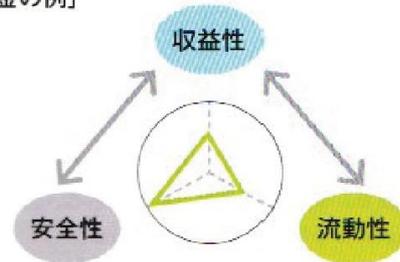
安全性と収益性の説明

⑤ 安全性, 収益性, 流動性

安全性, 収益性, 流動性の3つは連動しており, 例えば収益性が高くなると, 安全性や流動性は低くなる。

安全性	元本の保証の度合い
収益性	利回りのよさ
流動性	預金期間などが固定されずに容易に現金化できる度合い

[定期預金の例]



第9章 経済生活を営む 5 家計をマネジメントする
東京書籍「家庭総合」P247

資料12 投資商品と普通預金

	投資商品	普通預金
メリット	大きな利益を得る可能性がある。	お金の出し入れが自由。
デメリット	現金にするのに時間がかかる。損失を出す可能性がある。	金利が低い。

資料13 金融商品の選択基準

安全性	収益性	流動性
予想外の損失をこうむらないか, 元本割れを起ささないか。	どのくらい値上がり益や利回りが見込めるか。	必要な時にすぐ資金を引き出すことができるか。

実教出版「家庭総合」P251

甘える経営者、無責任な 投資家

株式会社とは？

株式会社のしくみ

企業とは、財やサービスの生産・販売などを行う経済主体である。企業には、国や地方公共団体などによって運営される**公企業**もあるが、ほとんどは**私企業**（民間企業）である。私企業は、**利潤**（もうけ）をできるだけ増やすことを目的としており、個人企業と法人企業に分けられる。いわゆる会社は法人企業であり、その組織や運営などについては**会社法**で規定されている。

数研出版「公共」P122

額を決まった時期に返すケースが多い。他方、株式は、利潤に応じて配当を支払うが、利潤が出なければ配当をやめることもできるなど、経営者がある程度自由に決定できることから、「甘え」の余地がある。一方、株主は会社が倒産しても、出資額以上の損失は被らず（**有限責任**）、株式を短期間で売り払うことも自由であることから、「無責任」さも入り込む余地がある。株主は、

帝国書院「公共」P142

財政危機のリスク訴え

財政危機を唱える

現在日本の公債残高は2020年現在でおよそ985兆円にも上り深刻な状況にある。^① GDP (国内総生産)^② に占める債務残高で見ても、国際的にも突出した数字になっている。また国債を除いた基礎的財政収支 (プライマリー・バランス)^④ も赤字に陥っており、適正な行政が行えなくなる財政の硬直化の危機にある。

国債は政府の借金であり、いずれ利子を付けて返済しなければならない。政府の返済能力に不安が生じると国債の価格が暴落し財政が破綻する恐れさえある。なぜなら国債は、国民の税金でいずれ返済されると信用されて

教育図書「公共」P130

今後金利が上昇した場合にはどうなるか

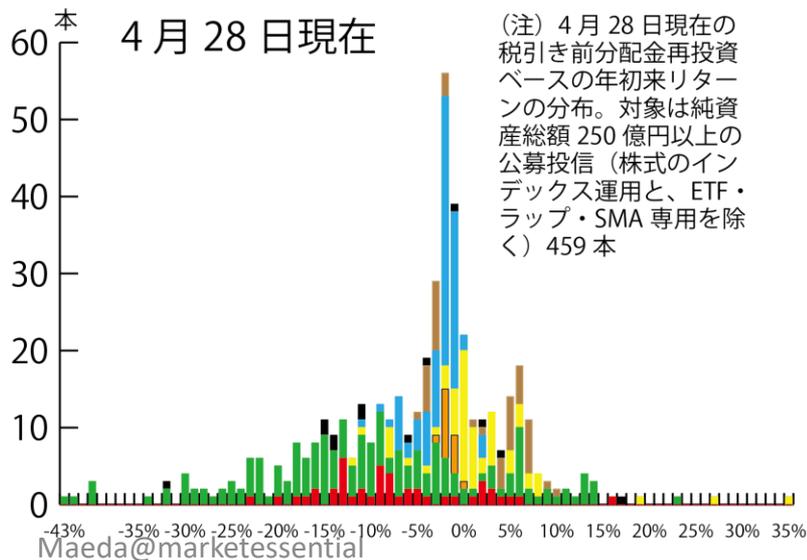
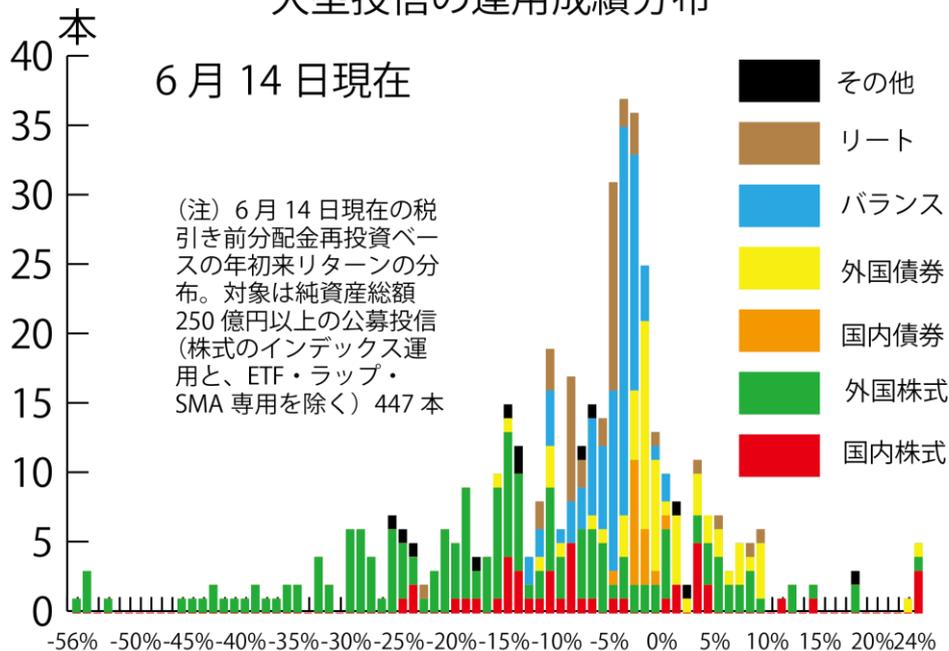
低金利の時代に、日本は国債発行残高という多額の借金を抱えることになった。低金利の現在は、その金利負担は大きくはなく、国債の利払いは無理なく行われている。しかし、もし市場の金利が上昇して、新たに発行する国債の金利が上昇することになれば、その金利負担は莫大な金額になる。このようなリスクを私たちは抱えているのである。

数研出版「公共」P143

「経済の先行きを
読むことは誰
にもできない」
(東京書籍「家
庭総合」P247)

株
価
の
先
行
き
も
誰
に
も
読
め
な
い
(
読
め
れ
ば
プ
ロ
は
失
敗
し
な
い
)

大型投信の運用成績分布

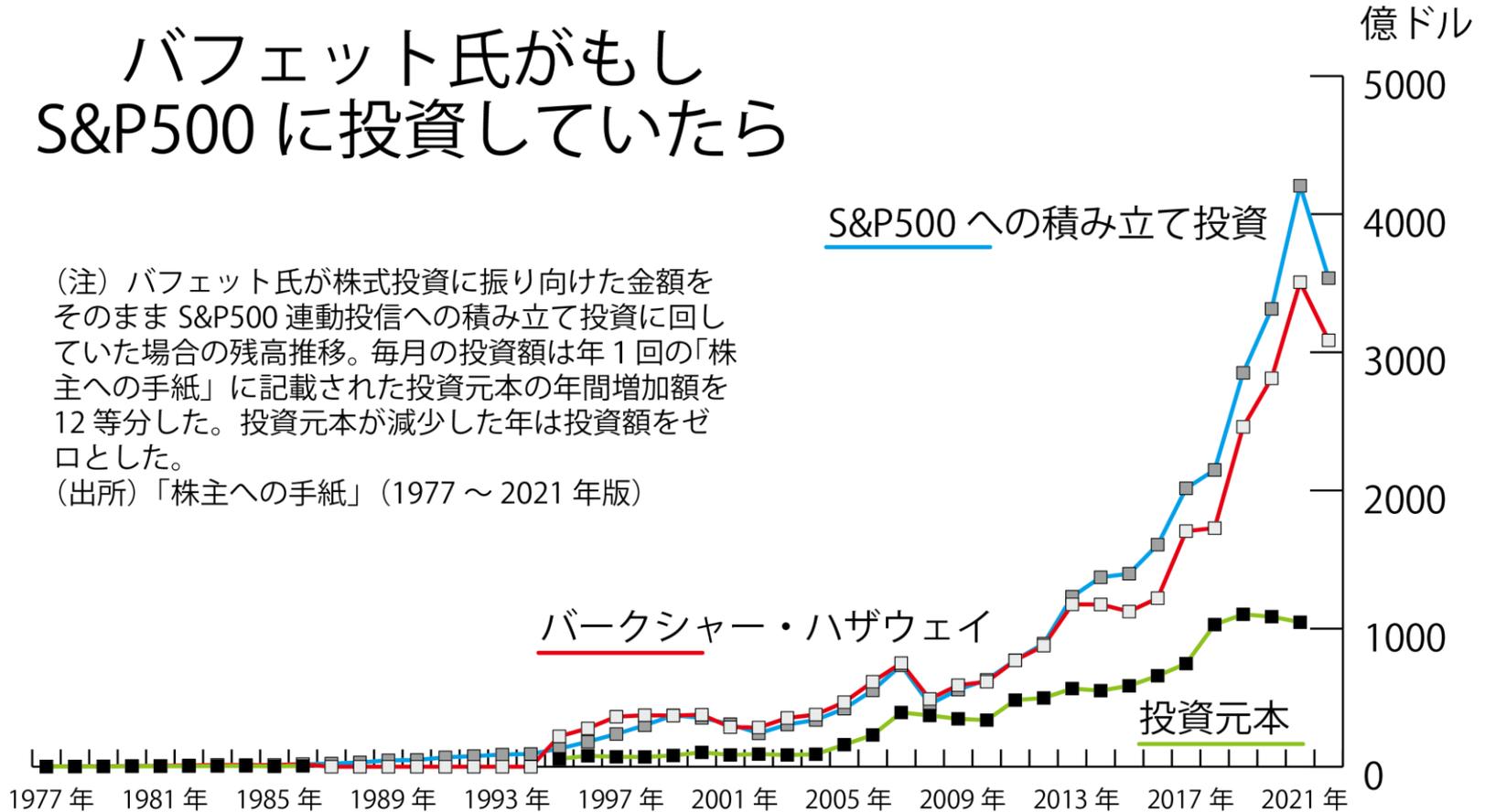


バフェット氏も指数に負ける

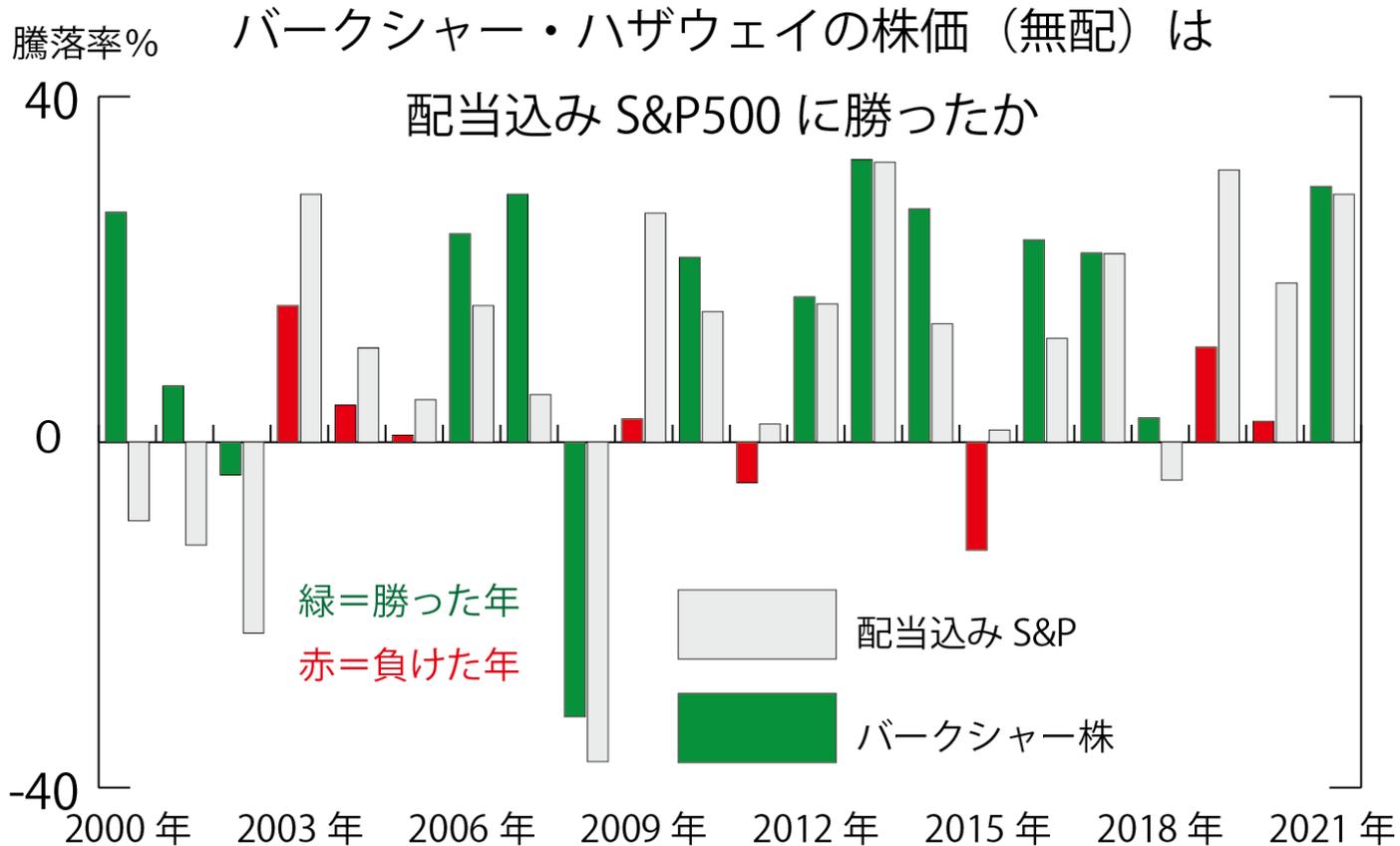
バフェット氏がもし S&P500 に投資していたら

(注) バフェット氏が株式投資に振り向けた金額をそのまま S&P500 連動投信への積み立て投資に回していた場合の残高推移。毎月の投資額は年 1 回の「株主への手紙」に記載された投資元本の年間増加額を 12 等分した。投資元本が減少した年は投資額をゼロとした。

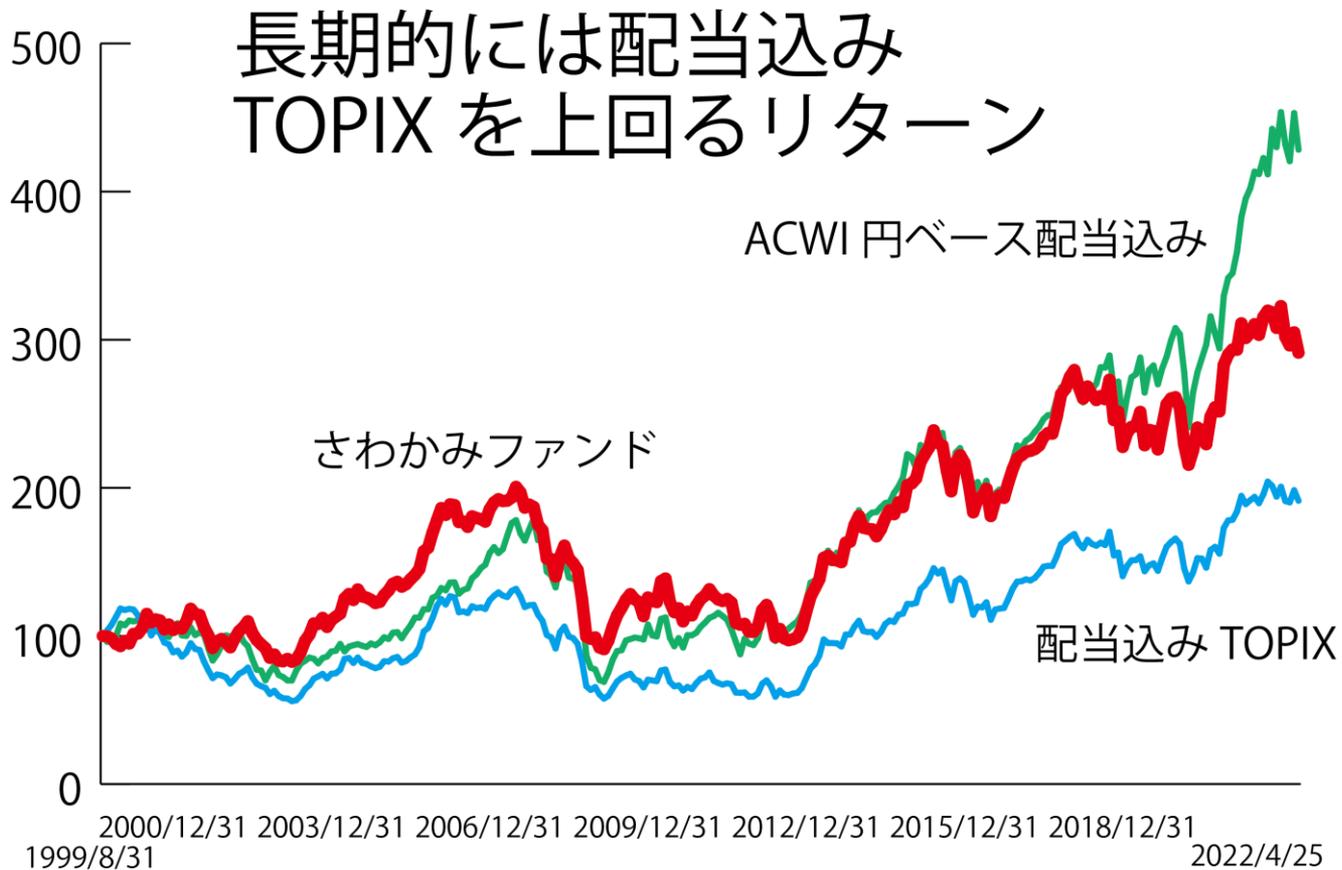
(出所) 「株主への手紙」(1977 ~ 2021 年版)



投資の勉強をしても、成 功確率は上昇しない



さわかみファンドは一見、
指数に勝てたようだが……



勝ったのは最初の数年だけ

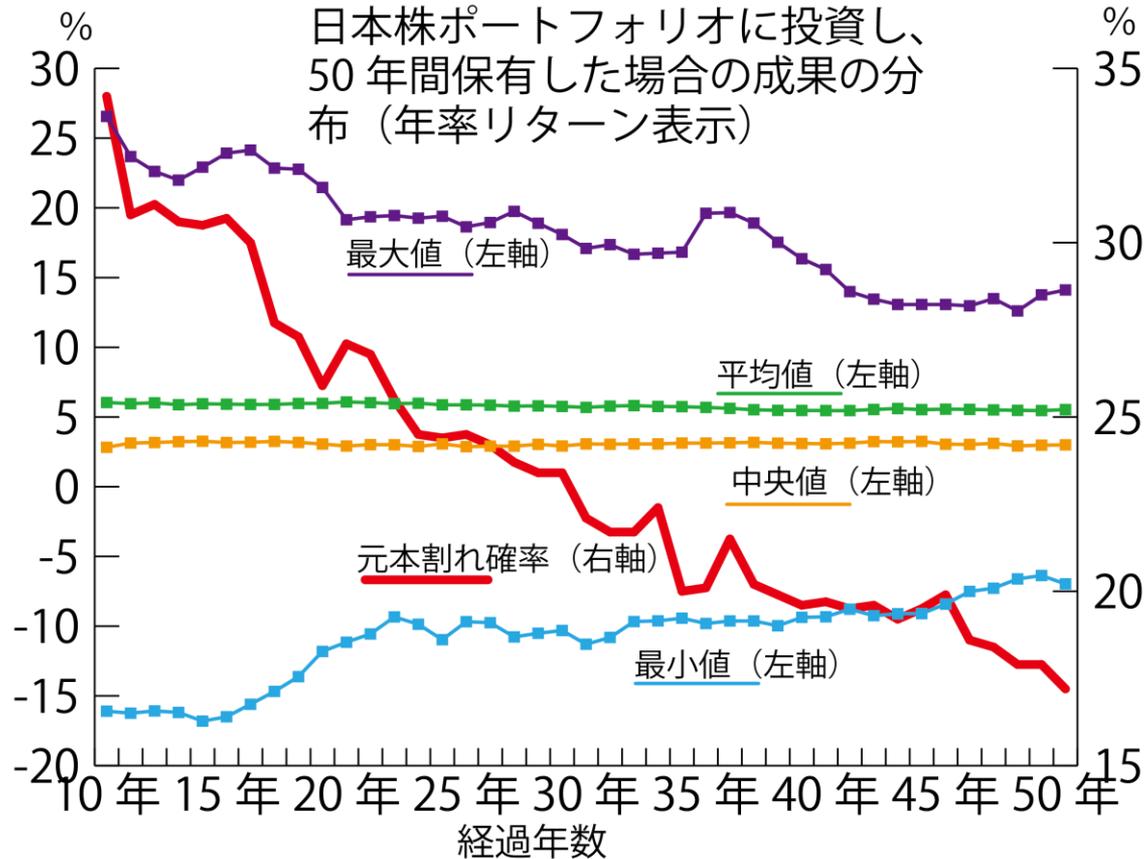
10年累積リ
ターン (%)

買って10年保有する運用では、10年間のリターンが徐々に配当込みTOPIXで運用した場合と比較して、勝てなくなっている



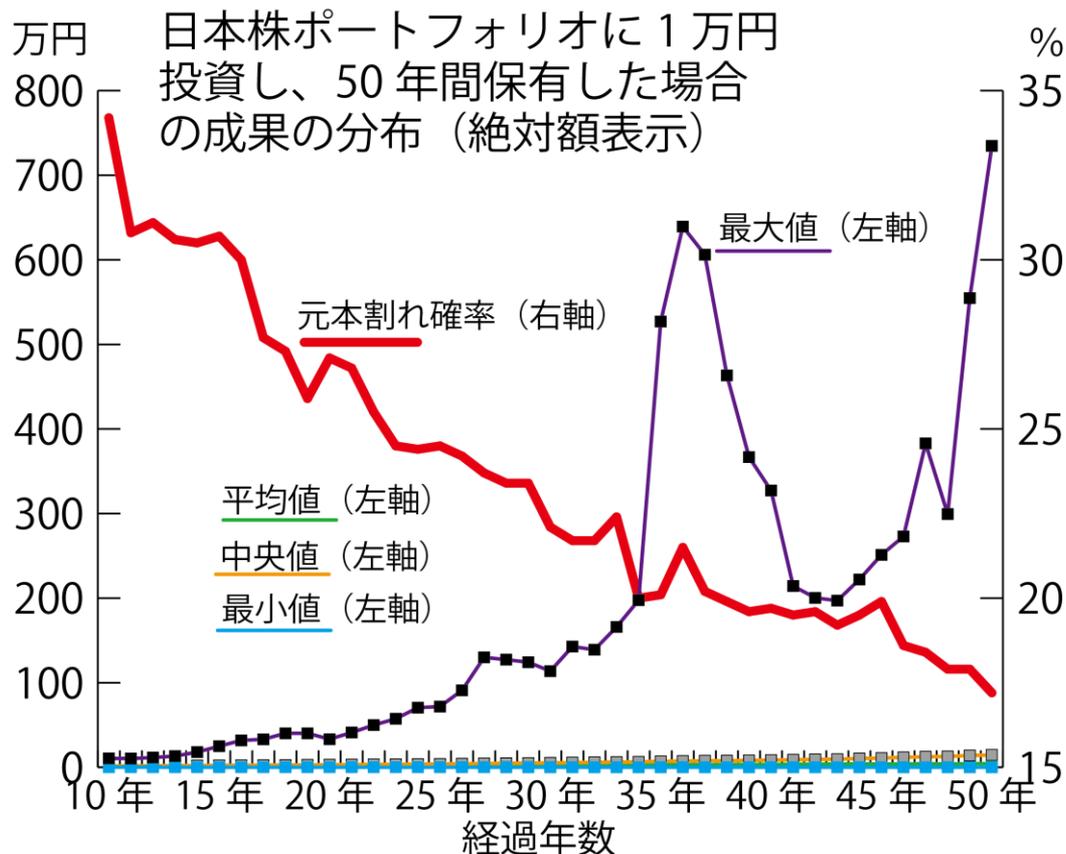
10年間の運用を終了した月

長期投資はリスクが減る ようにみえるが.....



(注) 想定リスク 23.14%、期待リターン 5.6%の日本株ポートフォリオに投資した場合

年率での差が縮まっても、 実額では大差ができる



(注) 想定リスク 23.14%、期待リターン 5.6%の日本株ポートフォリオに投資した場合

金融庁ホームページ
の問題点

資産運用シミュレーション

将来いくらになる？

毎月いくら積立てる？

何年間積み立てる？

毎月の積立金額

想定利回り（年率）

積立期間

5
万円

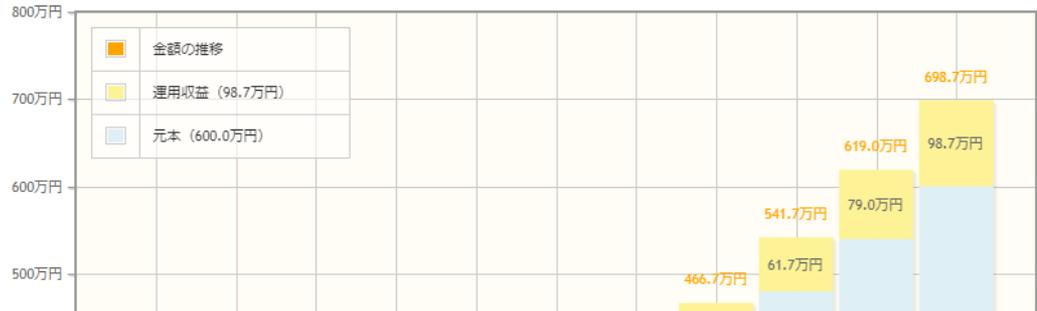
3
%

10年

計算する

最終積立金額 6,987,071円

積立金額と運用成果

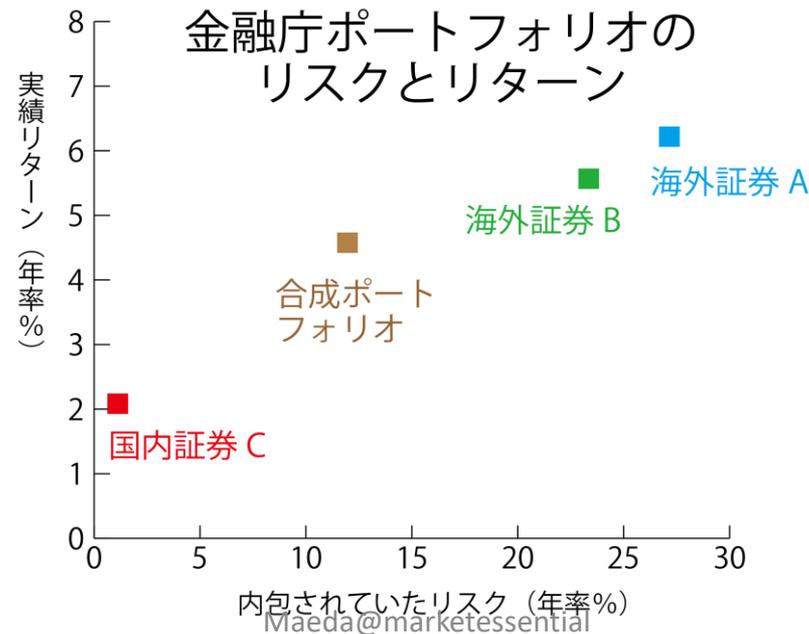


長期投資の効果を比較してみましょう。たとえば、毎月2万円の少額投資による積み立て投資を想定します。年3%の収益が期待される低リスク商品に投資した場合、10年間の投資期間で貯めることができるのは280万円弱です。しかし投資期間を30年とすると、1165万円になります。その金額を同じ3%の収益で10年間で達成するには、月々8万円以上の積立額が必要になります。

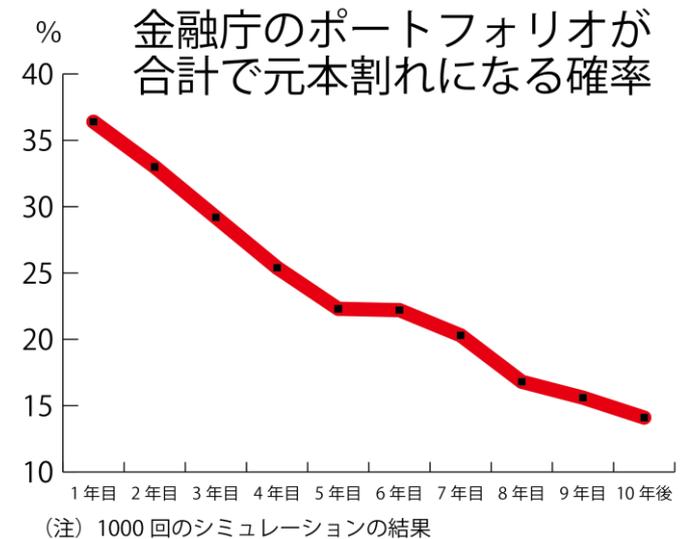
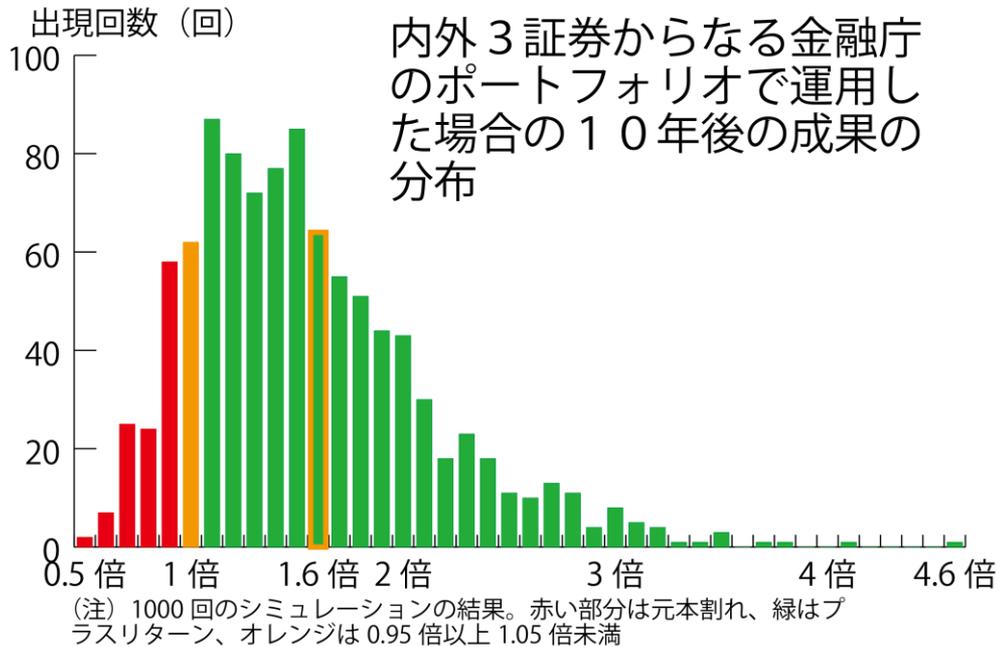
若年層であれば、少額投資で低リスク商品に投資したとしても、時間を味方につけて、30年後の資金として十分に役立つことになるでしょう。低リスク商品とはいえ、価格変動などのリスクは伴いますが、早めに準備を始めることで、リスクを抑えつつ、長期投資の効果を得ることができます。

分散投資の効果を示しているようだが・・・

(円)	投資開始	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年
海外証券A	10,000	12,060	13,278	16,558	20,498	21,380	10,134	15,586	15,212	13,858	18,279
海外証券B	10,000	9,690	6,800	7,327	9,826	7,644	10,778	13,473	17,475	19,711	17,188
国内証券C	10,000	10,080	10,100	10,373	10,726	10,876	11,137	11,348	11,564	11,795	12,291
分散投資 (等配分)	10,000	10,610	10,093	11,419	13,683	13,300	10,683	13,469	14,750	15,122	15,919



10年後の結果の分布と元本割れ確率



投資と宝くじとの違い

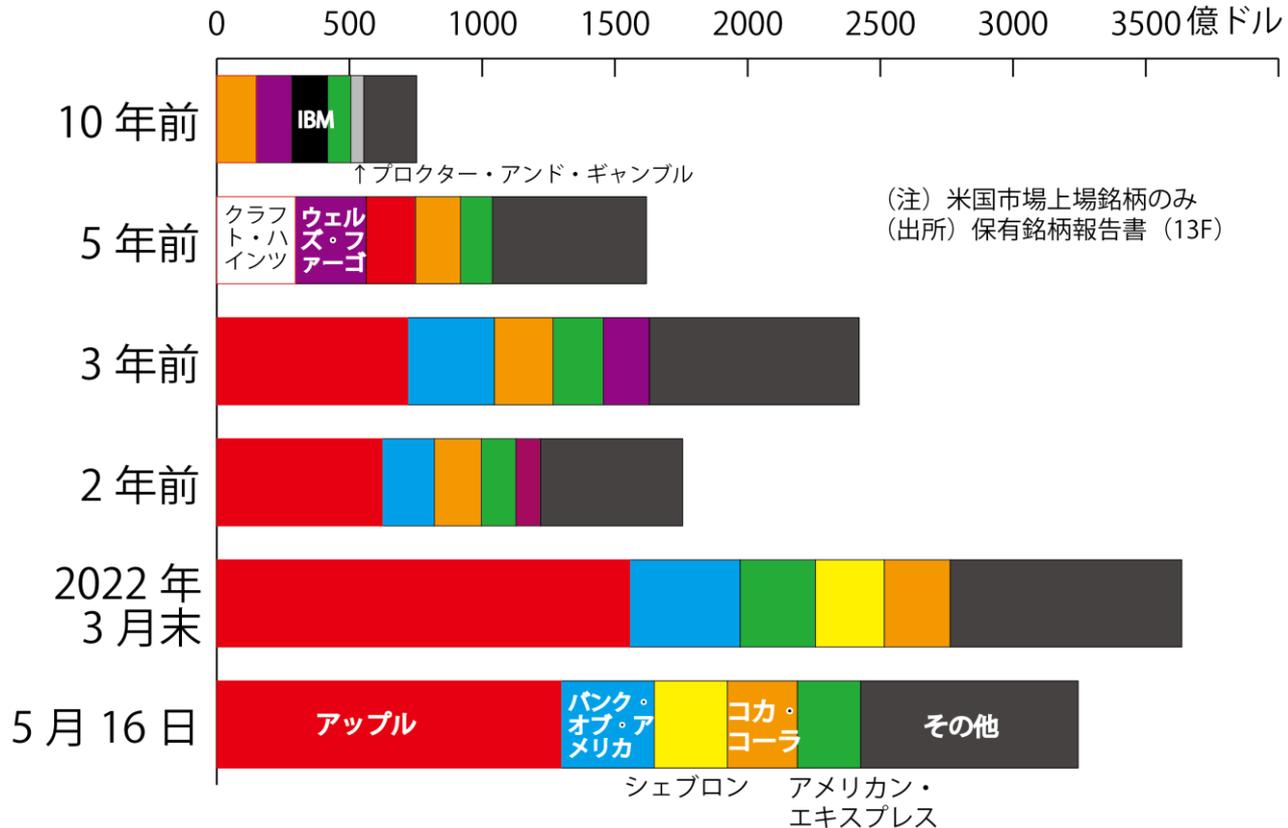
	投資	宝くじ
勉強すれば成功確率が上がるか	上がらない	上がらない
意図的に「失敗」することはできるか	「上場廃止予定銘柄」を買う場合などを除いて、できない	できない
結果の出方は偶発的か	偶発的	偶発的
リターンの総額は	将来の「掛け金」総額によって左右される	当初の掛け金総額から経費等（53%）を引く
終了時期を自分で決められるか	決められる	決められない
必勝法はあるか	個人投資家ならば結果の判定をいつでも先延ばしできる	当選者決定で終了

それでも投資をすべきか

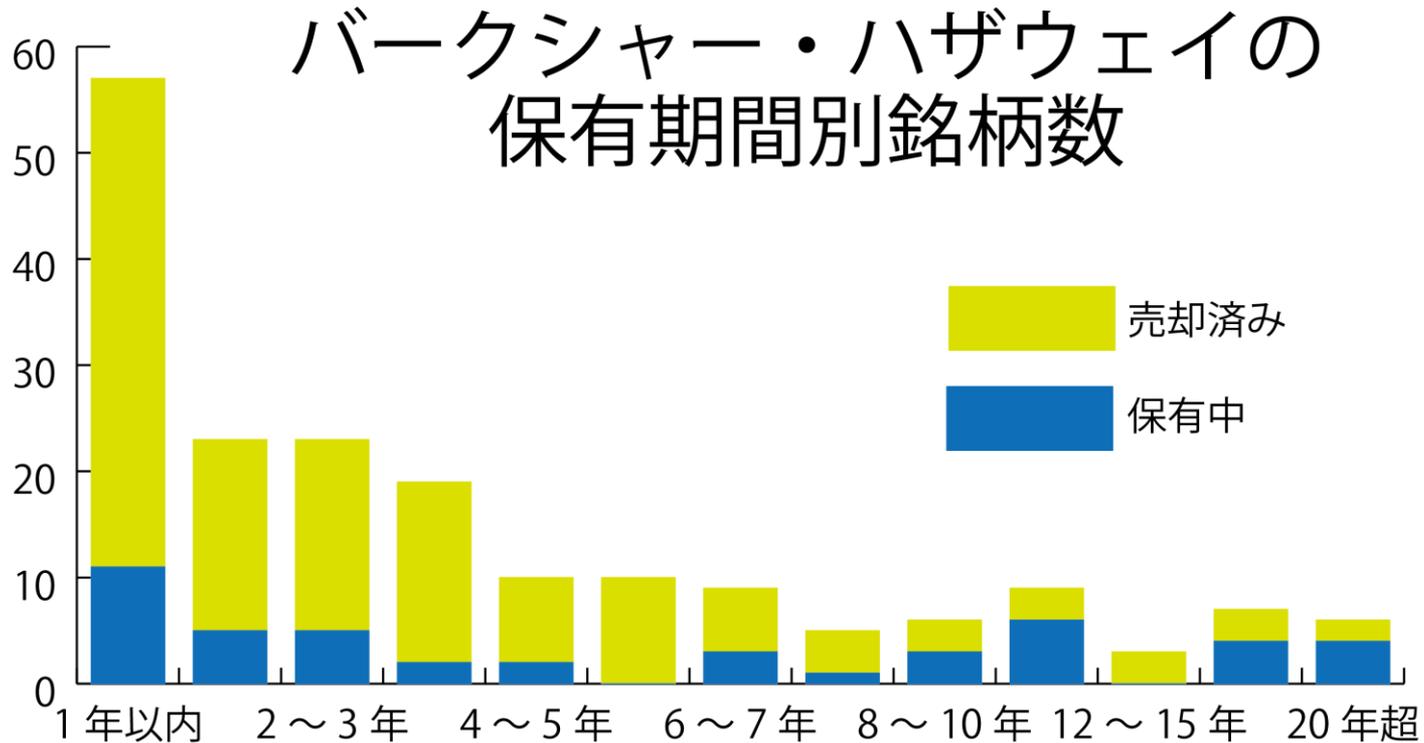
- 「老後の資金不足をリスク商品への投資で補え」という同調圧力はおかしい
- 例えば7割は投資に成功すると言っても、あなたは残りの3割に陥る可能性がある
- 勉強しても結果の分布は変わらない。結果の偶発性は宝くじと同じ
- それでも投資のプロセスも含めて楽しいと思えるのならば、どんどんやればいい
- 投資をするのならば、勉強してからやったほうがためになるし、失敗の教訓も得られる
- インフレへの備えは「稼ぐ力」と「良い友人関係」

バフェット神話について

バークシャー・ハザウェイの株式ポートフォリオの変化



割安株の長期投資家ではない



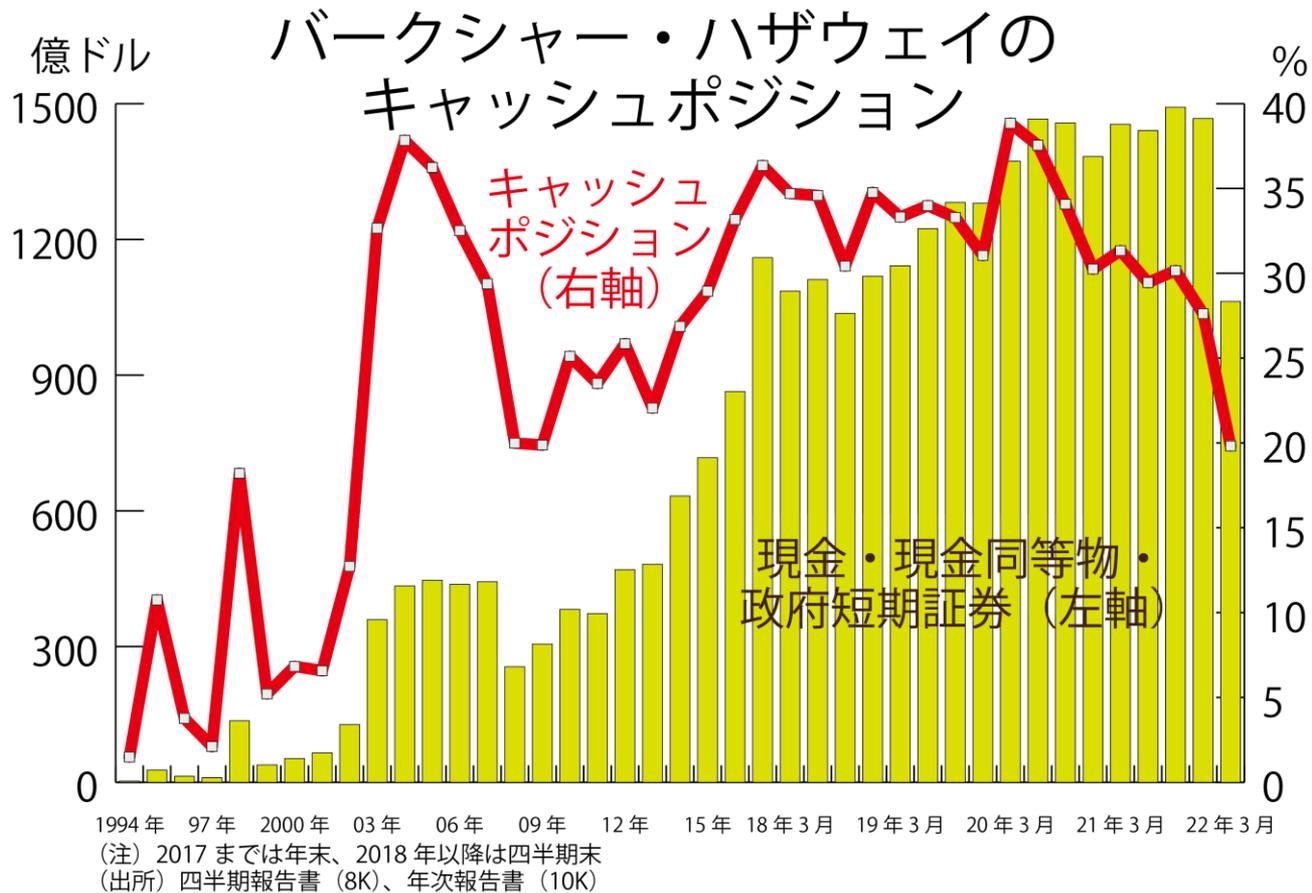
(注) 保有銘柄報告書(13F)に登場するたびに3カ月保有したと仮定して計算。これまでに保有した銘柄は187銘柄(うち保有中46銘柄、売却済み141銘柄、リバティメディアの種類株は1銘柄とカウント)

勝負に出たバフェット氏

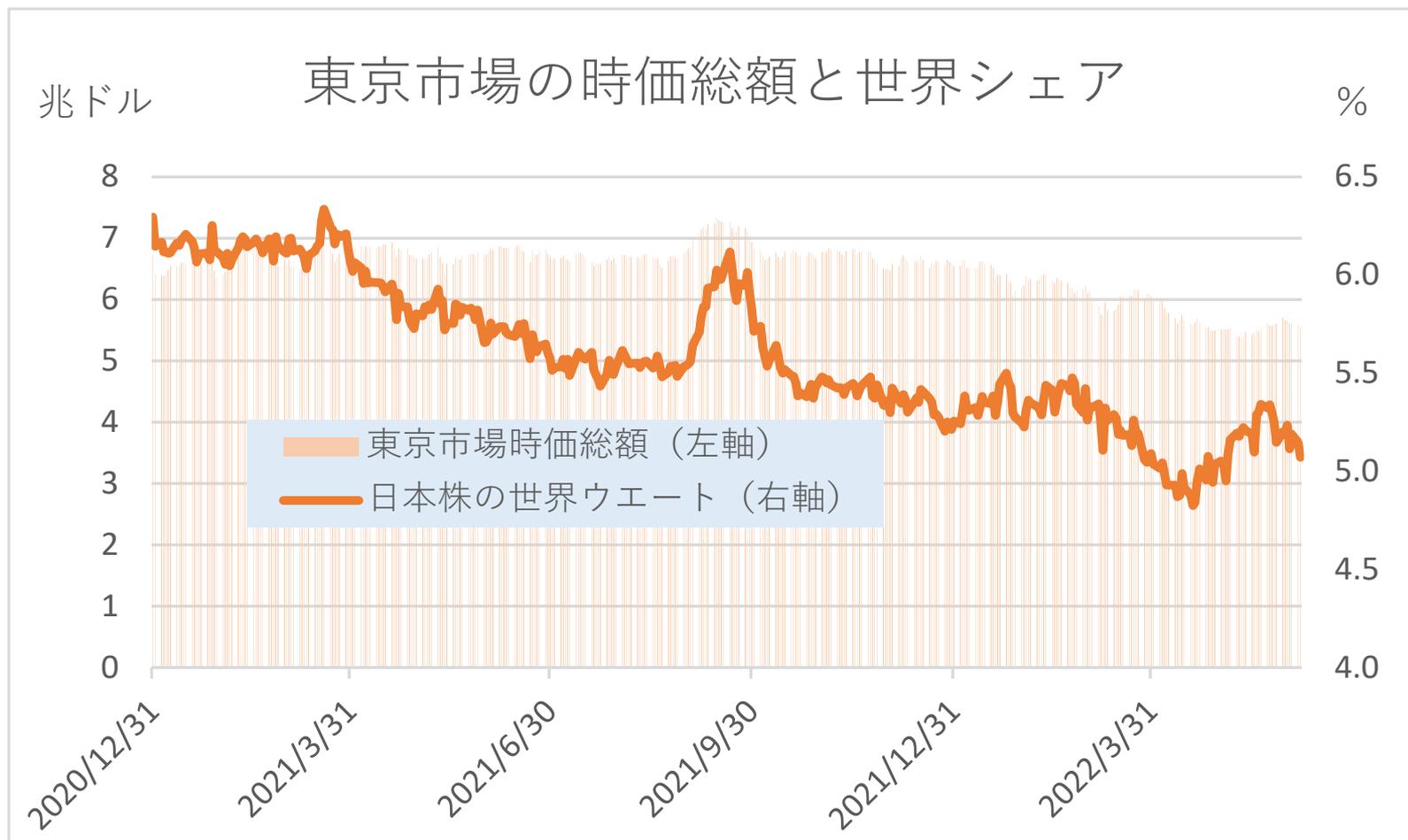


(出所) 四半期報告書 (8K)、年次報告書 (10K)

キャッシュポジションは 20%弱まで急低下



世界が沈めば、日本は浮かぶか



ファイナンシャル・アドバイザーの皆様に一言

- 証券投資はリターンが約束されているわけではない。過去の実績は参考にもならない
- 老後資金の不足分を資産運用によって補うなどというプランはおとぎ話にすぎない
- 飲食店ならば顧客の7割が満足すれば事業として成り立つ。同様の感覚でアドバイス業務をやられたら、顧客はたまったものではない
- 「明るい未来」ではなく「正しい現実」を伝えて、顧客とは長期にわたる信頼関係を
- 逆風時にこそ、歯を食いしばって「誠実な仕事」を

「今週のマーケットエッセンシャル」無料購読のご案内

- 最近のエッセンシャル

(5/4) GWに感じる日本の瀬戸際
日銀、国債含み益15兆円減

(5/11) 東芝「復活」への点と線
原発再稼働期待が追い風に

(5/18) 大勝負に出たバフェット氏
石油株買い資源高にらむ

(5/25) 底力が問われた銀行決算
ヘッジ外債で多額の赤字

(6/1) 証券界は徹底抗戦？ 金融
庁が描く証券営業改革

(6/8) 嫌われた日銀の本音 円安
進行が資本逃避招く

(6/15) 日銀の保有国債の含み益、
金利上昇で底をつく

- 「今週のマーケットエッセンシャル」を2022年11月3日までの20週分、Eメールの添付ファイルとして無料でお送りします
- お配りした用紙に、ご氏名とメールアドレスをご記入ください。念のため、携帯番号もいただければ幸いです
- エッセンシャルは来週水曜日（6月22日）早朝公開分からお送りします
- 用紙を後で郵送していただいても結構です。その場合は開始日が若干ずれます（終了日は変わりません）
- **11月10日以降への自動更新はいたしません。**有料（1カ月1100円）になりますので、改めてお申し込みをお願いいたします